

創業160年、家訓を守る堅実経営 すぐ近くに小さな海 マリンのことなら田中産業へ

田中産業

田中産業(中央区新富、田中嘉一社長、03・35551・2461、<http://www.onze1852.co.jp/>)は、官庁船、商船、漁船、プレジャーボートに至るまでさまざまなユーザーに、ハード面では造船機械、副資材、ボート、エンジン販売・メンテナンスまで、ソフト面ではボートライセンスからレンタルボートの受付業務まで、多岐にわたる船舶業務を行っている。



田中産業の理念を綴った「家訓永続記」

同社の発祥は「黒船来航」の1年前、1852年(嘉永5年)に初代与助が日本橋箱崎町で創業した「十一屋与助商店(麻船具問屋)」に遡る。当時利根川から江戸に向けての河川舟運の交通の要所は千葉県との関宿で、銚子・野田方面から米・味噌・醤油・酒などを運んでいた。初代は当時の関宿喜多村商店での修行を経て、主に高瀬舟などの木造船の麻船具を取扱っていた。

初代与助からしっかりと守られてきた理念が今日まで残されて

いる。目録も含めて16巻におよぶ「家訓永続記」という伝書である。田中社長は「人としての生き方や商いを戒める初代の信念は大変厳しく、それを子孫や主要な関係者に伝えていくために書かれた物です」と話してくれた。

運営するマリショップ「ONZE MARINET」は、初代の屋号であった十一屋に因んでフランス語の11(ONZE)と、業界のつながり(マリネットワーク)を大切にしたいという意味を重ねて命名された。海とともに160年。激動の時



マリショップ「ONZE MARINET」<http://www.onze.co.jp/>

代にあって、同社は船舶関連用品商社の草分けとしての永い経験を活かしながら、これからもマリ業界の包括的サポート企業としてさらなる飛躍をめざしている。